1 まず読みましょう

●安全・快適ドライブのために　16
●ターボ車の取り扱いチェックポイント　32

無断複製禁止

安全・快適ドライブのために

●お出かけ前のチェック

シートベルトを正しく着用してください。

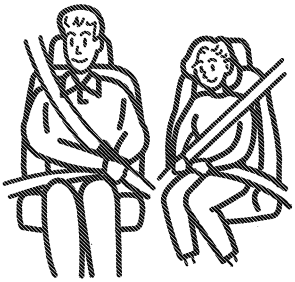
運転席にすわってエンジンを始動してください。

点検整備を必ず実施してください。

●日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施していただくことが法律で義務づけられています。
点検整備については「メンテナンスノート」をお読みください。

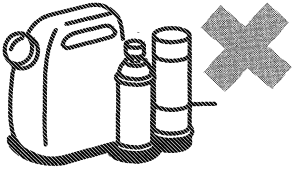
走行中は必ず全員がシートにすわり、シートベルトを正しく着用してください。

●走行中のシート以外の場所への乗車・車内の移動・シートベルトの不適切な着用は、急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。



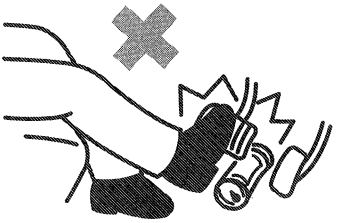
燃料がはいった容器やスプレー缶などは積まないでください。

●万一のとき引火するおそれがあり危険です。



運転席足元に物を置かないでください。

●空缶などの物を置くとブレーキペダルの下にはさまりブレーキ操作ができなくなったり、アクセルペダルがもどらなくなるなどのおそれがあり危険です。



無断複製禁止

指定以外の燃料を補給しないでください。

●無鉛ガソリンを使用してください。有鉛ガソリンや粗悪ガソリン、軽油を補給するとエンジンなどに悪影響をおよぼします。

- 3.0L車、2.5L車は無鉛プレミアムガソリン（無鉛ハイオク）仕様車です。ガソリンは無鉛プレミアムガソリンを使用してください。
  万一、無鉛プレミアムガソリンが入手できないときに無鉛レギュラーガソリンを使用されても、通常走行に支障はありませんが、エンジン性能を十分発揮できないことがあります。

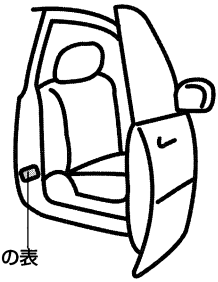
日常点検として必ずタイヤの点検を行い、異常があるタイヤは装着しないでください。

●タイヤは、

- タイヤ空気圧の点検
- タイヤのき裂・損傷の有無の確認
- タイヤの溝の深さの点検
- タイヤの異常な磨耗（極端にタイヤの片側のみが磨耗している・磨耗程度がほかのタイヤと著しく異なるなど）

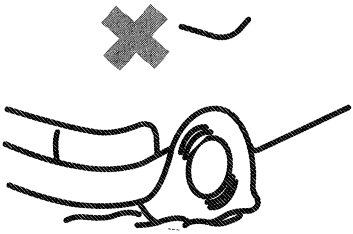
を点検します。
タイヤの点検方法は**「メンテナンスノート」**を参照してください。

●タイヤの点検は法的にも義務づけられています。なお、指定空気圧は、運転席ドアを開けたボディ側に貼られている「タイヤ空気圧」の表で正しい空気圧を確認のうえ、調整してください。



無断複製禁止

●異常があるタイヤを装着していると、走行時にハンドルが取られたり、異常な振動を感じることがあります。
また、バースト（破裂）など修理できないような損傷をタイヤにあたえたり、タイヤが横すべりするなど思わぬ事故につながるおそれがあります。

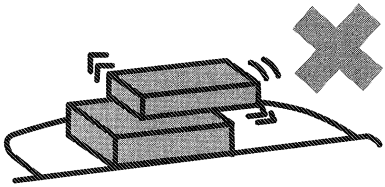


●異常があるタイヤを装着していると、車の性能（燃費・車両の安定性・制動距離など）が十分に発揮できないばかりでなく、思わぬ事故につながるおそれがあります。また、部品に悪影響をあたえるなど故障の原因となることがあります。
例えば、下記のシステムは、正確な車両速度が検出できなくなる場合があり、正常に作動しなくなるおそれがあります。
- ＡＢＳ＆ブレーキアシスト
- トラクションコントロール
- ＶＳＣ
- スカイフックＴＥＭＳ
- クルーズコントロール
- タイヤ空気圧警報システム
- ＧＰＳボイスナビゲーション

また、下記のシステムは、性能が十分に発揮できないばかりでなく、駆動系部品に悪影響をあたえるおそれがあります。
- フルタイム4WD
- ＬＳＤ（リミテッド・スリップ・デフ）

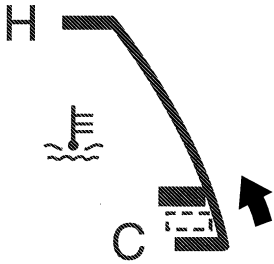
助手席や後席に荷物を積み重ねたり、パッケージトレイの上に荷物を置かないでください。

●ブレーキをかけたときなどに荷物が移動し、荷物を損傷したり思わぬ事故につながるおそれがあります。
●背もたれ後方のパッケージトレイの上に荷物を置かないでください。急なブレーキをかけたときなどに荷物が飛び出し、けがをするおそれがあり危険です。



水温計の指針（表示）が動き出すまでは、極端にアクセルペダルをあおらないでください。

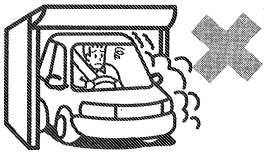
●暖機不足の状態では触媒装置が焼損するおそれがあります。
●暖機は水温計の指針（表示）が動き出す程度で十分です。



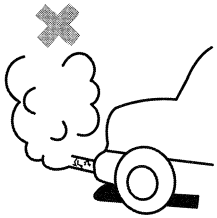
無断複製禁止

排気ガスには無色・無臭で有害な一酸化炭素（CO）が含まれているため、排気ガスを吸い込むとガス中毒になるおそれがあります。

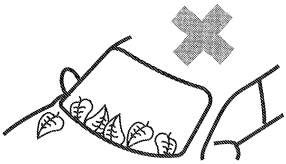
●換気が悪い場所ではエンジンをかけたままにしないでください。とくに車庫内など囲まれた場所では、排気ガスが充満し、ガス中毒になるおそれがあり危険です。



●排気管はときどき点検してください。排気管の腐食などによる穴やき裂、および継ぎ手部の損傷、また、排気音の異常などに気づいた場合は、必ずトヨタ販売店で点検整備を受けてください。そのまま使用すると排気ガスが車内に侵入し、ガス中毒になるおそれがあり危険です。



●フロントガラス前部の外気取り入れ口に雪、落ち葉などがついているときは取り除いてください。外気が導入できず、車内の換気が十分できなくなるおそれがあります。



●トランクが閉まっていることを確認してください。開けたまま走行すると、排気ガスが車内に侵入するおそれがあり危険です。

●車内に排気ガスが侵入してきたと感じたら、すべての窓を全開にしたり、空調の内外気切り替えを外気導入にしてファンを強にし、新鮮な外気を車内にいれてください。また、すみやかにトヨタ販売店で点検整備を受けてください。そのまま放置すると、排気ガスによるガス中毒のおそれがあり危険です。

日常点検として必ずバッテリーの液量を点検してください。

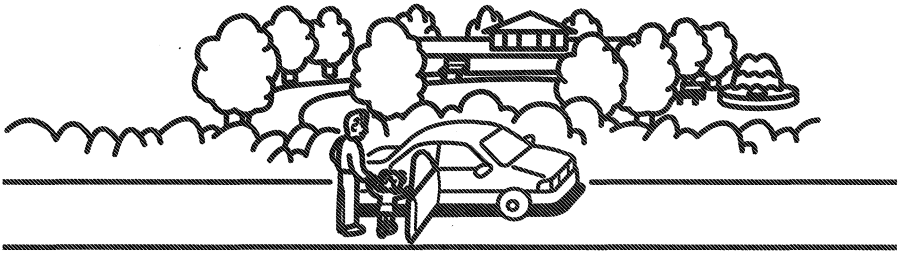
●バッテリーの液面が各液槽とも、バッテリー側面に表示されたＬＯＷＥＲ ＬＥＶＥＬ（下限）以下のまま使用・充電すると、バッテリーの寿命が短くなったり、発熱や爆発するおそれがあり危険です。
点検方法は**「メンテナンスノート」**を参照し、液量が少ないときは補給してください。

次の場合は車が故障しているおそれがあります。そのままにしておくと走行に悪影響をおよぼしたり、事故につながるおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

●いつもと違う音や臭いや振動がするとき
●ハンドル操作に異常を感じたとき
●ブレーキ液が不足しているとき
●地面に油の漏れたあとが残っているとき

無断複製禁止

●お子さまを乗せるときの気くばり



お子さまはリヤシートにすわらせてください。

●助手席ではお子さまの動作が気になり運転のさまたげになるだけでなく、お子さまが運転装置にふれて思いがけない事故につながるおそれがあります。また、万一の事故の場合、リヤシートのほうが安全と言われています。

●チャイルドプロテクターをお使いください。(72ページ参照)

●やむを得ず助手席にお子さまを乗せるときでも、シートをできるだけ後方にして必ずシートベルトを着用させ、シートに深く腰かけて、背もたれに背中がついた正しい姿勢ですわらせてください。お子さまがＳＲＳエアバッグの前に立っていたり、正しい姿勢ですわっていなかったりすると、ＳＲＳエアバッグがふくらんだときの強い衝撃で生命にかかわるような重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

お子さまにもシートベルトを必ず着用させてください。

●ひざの上でお子さまを抱いていても、衝突したとき十分に支えることができず、お子さまが重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

●リヤシートでも必ずシートベルトを着用してください。(43ページ参照)

●シートベルトが首やあごに当たる場合や、腰骨にかからないような小さなお子さまはチャイルドシート・ジュニアシートを使用してください。通常のシートベルトでは、衝突のとき腹部などに強い圧迫を受け重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。また、ひとりすわりのできない小さなお子さまはベビーシートを使用してください。

ベビーシート・チャイルドシート・ジュニアシートをご使用になるときは、必ず商品に付属の取扱書をよくお読みのうえ、確実に取りつけ、使用方法を守ってご使用ください。

●ベビーシート・チャイルドシート・ジュニアシートについてはトヨタ販売店にご相談ください。
また、50ページの**「チャイルドシート固定機構付シートベルト」**もあわせてお読みください。

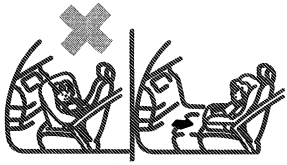
無断複製禁止

〈選択の目安（トヨタ純正品の場合）〉

	体重	身長	参考年令
ベビーシート	10kg未満	75cm以下	新生児～12カ月
チャイルドシート	9～18kg	75～105cm	9カ月～4才
ジュニアシート	15～32kg	100～135cm	4才～10才

●ベビーシート・チャイルドシート・ジュニアシートなど子供専用シートはお子さまを乗せていないときでもしっかりとシートに取りつけるか、または、使用しないときはトランクに収納してください。シートから取りはずしたまま客室内に放置すると、ブレーキをかけたときなどに乗員や物などに当たるなどして思わぬ事故につながるおそれがあります。

●助手席には、ベビーシートなどうしろ向き装着の子供専用シートは絶対に取りつけないでください。また、チャイルドシートなど前後向きとも装着可能な子供専用シートでもうしろ向きには絶対に取りつけないでください。助手席ＳＲＳエアバッグがふくらんだとき、子供専用シートの背面に強い衝撃が加わり、生命にかかわるような重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。なお、やむを得ず助手席に前向き装着の子供専用シートを取りつける場合には、シートの前後位置調整を一番うしろにして取りつけてください。



●ＳＲＳサイドエアバッグ装着車では、フロントドアにもたれかからないようにしてください。ＳＲＳサイドエアバッグがふくらんだときに頭部などに強い衝撃を受け生命にかかわるような重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。とくにお子さまをを乗せるときにはご注意ください。

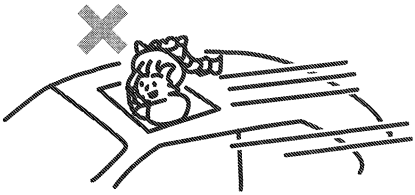
ドア、ウインドゥ、ルーフなどはお子さまに操作させないでください。

●閉めるとき手や頭などをはさんだりして重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

●ウインドゥロックスイッチもあわせてお使いください。（77ページ参照）

窓やルーフなどから手や顔を出さないでください。

●車外の物などに当たったり、急ブレーキ時に重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。



車から離れるときは、お子さまを車内に残さないでください。

●炎天下の車内は高温となり熱射病などのおそれがあり危険です。

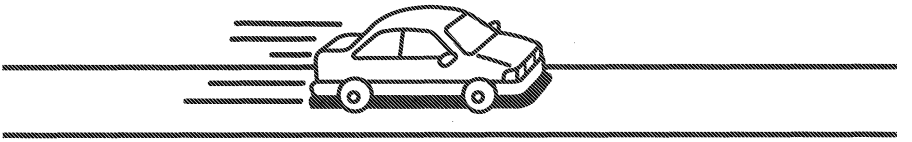
●いたずらなどにより思わぬ事故につながるおそれがあります。

無断複製禁止

●走行するときは

車間距離は十分とってください。

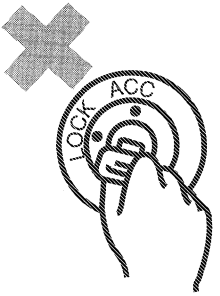
急発進、急ブレーキは避けてください。



走行中はエンジンを切らないでください。

●エンジンがかかっていないとブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが非常に重くなり思わぬ事故につながるおそれがあります。

●マニュアル車はエンジンスイッチをＬＯＣＫの位置にするとキーが抜けることがあります。キーが抜けるとハンドルがロックされハンドル操作ができなくなります。

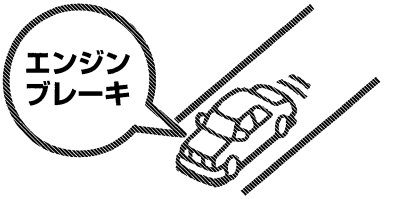


ハンドルをいっぱいにまわした状態を長く続けないでください。

●オイル潤滑不良を起こし、パワーステアリングポンプを損傷するおそれがあります。

下り坂ではエンジンブレーキを併用してください。

●ブレーキペダルを踏み続けると、過熱によりブレーキの効きが悪くなるおそれがあり危険です。



ぬれた路面や積雪路、凍結路などのすべりやすい路面ではとくに慎重に走行してください。

●スピードをひかえめに運転し、急ブレーキや急激なエンジンブレーキは避けてください。

●クルーズコントロールは使用しないでください。

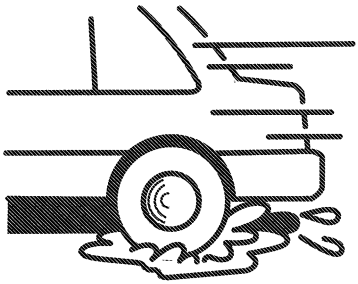
●寒冷時の取り扱いの項目もご覧ください。（202ページ参照）

とくに雨の降りはじめは路面がよりすべりやすいためご注意ください。

無断複製禁止

洗車後や水たまり走行後はブレーキペダルを軽く踏んでブレーキが正常に働くことを確認してください。

●ブレーキパッドがぬれるとブレーキの効きが悪くなったり、また、ぬれていない片方だけが効いてハンドルをとられるおそれがあります。
効きが悪い場合は、周囲の安全に十分注意して効きが回復するまで数回ブレーキペダルを軽く踏んでください。

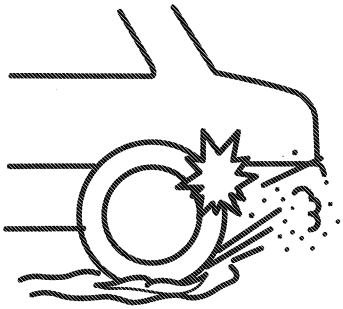


ブレーキペダルに足をのせたまま走行しないでください。

●ブレーキ部品が早く摩耗したり、ブレーキが過熱し効きが悪くなるおそれがあります。

スタック（立ち往生）したときは次のことに注意してください。

●スタックから脱出するときは、必ず周囲の安全を十分に確認してください。脱出直後に車両が突然動き出し、物を損傷させたり、人に重大な傷害をおよぼすおそれがあり危険です。
●タイヤを高速で回転させないでください。タイヤがバースト（破裂）したり、異常過熱により思わぬ事故につながるおそれがあります。



●スタックからの脱出のために、やむを得ず前進・後退を繰り返すときは、トランスミッションなどの損傷のおそれがあるため、次のことに注意してください。
- オートマチック車は、チェンジレバーをⒹまたは、Ⓡの位置に確実にいれてから、アクセルを軽く踏んでください。また、チェンジレバー操作中は、絶対にアクセルを踏まないでください。
- 過度の空ふかしやタイヤの空転をさせないでください。
- 数回行っても脱出できないときは、本操作を中止してください。

●スタック脱出には、次の方法が有効です。
- タイヤ前後の土や雪を取り除く。
- タイヤの下に木や石などをあてがう。

無断複製禁止

●オートマチック車の取り扱いチェックポイント

オートマチック車は、その特性や操作上の注意をよく理解することが大切です。
133ページの**「オートマチック車の運転のしかた」**もあわせてお読みください。

オートマチック車の特性

■クリープ現象

エンジンがかかっているとき、チェンジレバーがⓅⓃ以外の位置にあると、動力がつながった状態になりアクセルペダルを踏まなくてもゆっくりと動き出す現象をクリープ現象といいます。

■キックダウン

走行中にアクセルペダルをいっぱいに踏み込むと、自動的に低速ギヤに切り替わり、エンジンの回転数が上昇して急加速させることができます。
これをキックダウンといいます。

ブレーキペダルはアクセルペダルと同じ右足で操作してください。

●左足でのブレーキ操作は、緊急時の反応が遅れるなどの思わぬ事故につながるおそれがあります。

エンジンをかけるまえに

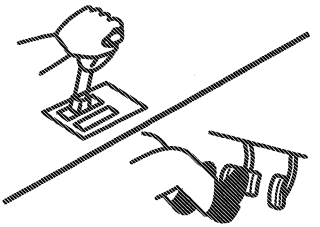
●ペダルの踏み間違いを防ぐためアクセルペダルとブレーキペダルの位置を確認してください。

エンジンをかけるときは

●安全のためチェンジレバーは車輪が固定されるⓅの位置にいれ、ブレーキをしっかり踏みエンジンをかけてください。

発進するときは

●ブレーキペダルをしっかり踏んだままチェンジレバーを操作します。とくにエンジン始動直後やエアコン作動時などはクリープ現象が強くなるため、よりしっかりとブレーキペダルを踏んでください。



●レバー操作は絶対にアクセルペダルを踏み込んだまま行わないでください。車が急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあります。

無断複製禁止

走行しているときは

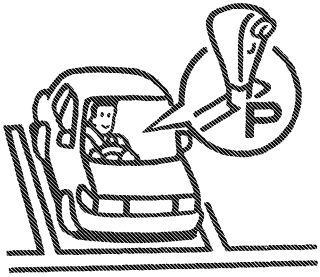
●走行中にはチェンジレバーをⓃの位置にしないでください。Ⓝにすると、エンジンブレーキがまったく効かないため思わぬ事故につながるおそれがあります。

停車するときは

●停車中の空ふかしはしないでください。チェンジレバーがⓅⓃ以外の位置にはいっていると車が急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあります。

駐車するときは

●駐車するときはチェンジレバーをⓅの位置にいれてください。
Ⓟ以外にはいっていた場合、クリープ現象で車がひとりでに動き出したり、誤ってアクセルペダルを踏み込んだとき急発進するおそれがあります。



その他の注意

●後退するときは体をひねった姿勢となるため、ペダルの操作がしにくくなります。ブレーキ操作が確実にできるよう注意してください。

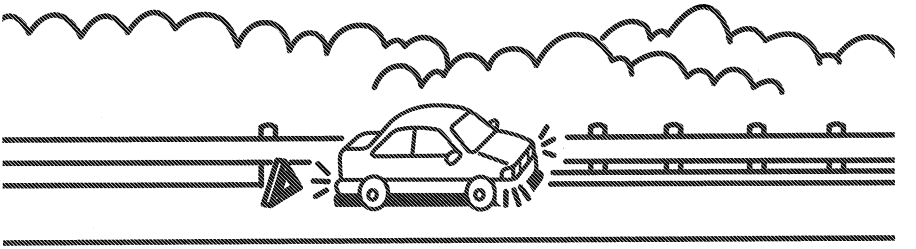
●車を少し移動させるときも正しい運転姿勢をとり、ブレーキペダルとアクセルペダルが確実に踏めるようにしましょう。

●少し後退したあとなどは、チェンジレバーをⓇの位置にいれたことを忘れてしまうことがあります。後退したあとはすぐⓃにもどすよう習慣づけましょう。

●切り返しなどでチェンジレバーをⒹからⓇ、ⓇからⒹの位置と何度もレバー操作をするときは、そのつどブレーキペダルをしっかり踏み、完全に車を止めてから行ってください。またチェンジレバーの位置も忘れずに確認してください。

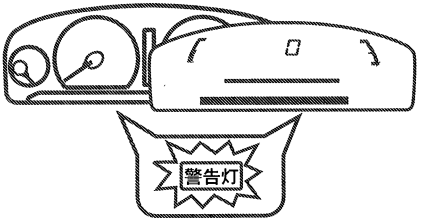
無断複製禁止

●走行中、異常に気づいたら



警告灯が点灯・点滅したら、安全な場所に停車し、ただちに処置してください。

●点灯・点滅したまま走行すると思わぬ事故を引き起こしたり、エンジンなどを損傷するおそれがあります。
（92ページ参照）



ブレーキパッドウェアインジケーターから警告音が発生したときは、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

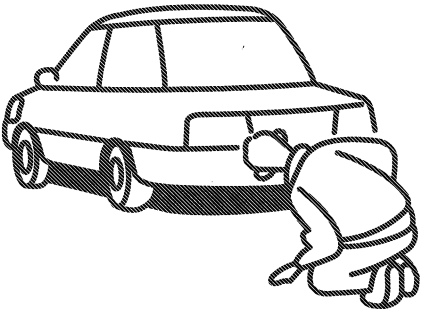
●ブレーキパッドウェアインジケーターは、走行中にブレーキペダルを踏んだとき、警告音（キーキーという金属音）を発生させ、ブレーキパッドが使用限度に近づいたことを運転者に知らせます。
警告音が発生したときは、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

走行中にパンクやバースト（破裂）しても、あわてず対応してください。

●ハンドルをしっかり持ち徐々にブレーキをかけてスピードを落としてください。急ブレーキや急ハンドルは車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
●次のようなときはパンクやバーストが考えられます。
- ハンドルがとられるとき
- 異常な振動があるとき
- 車両が異常に傾いたとき

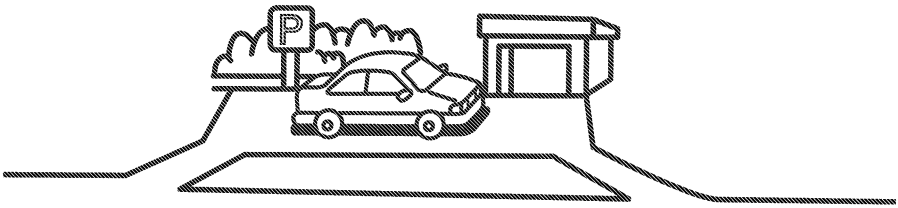
車体床下に強い衝撃を受けたら、すぐに安全な場所に車を止めて下まわりを点検してください。

●ブレーキ液や燃料の漏れ、損傷などにより思わぬ事故につながるおそれがあります。漏れや損傷などが見つかった場合は、そのまま使用せずトヨタ販売店などにご連絡ください。



無断複製禁止

●駐停車するときは



仮眠するときは、必ずエンジンを止めてください。

●無意識にチェンジレバーを動かしたり、アクセルペダルを踏み込んだりして、事故やエンジンの異常過熱による火災が発生するおそれがあり危険です。

●排気管が損傷していたり、風通しの悪い場所では、排気ガスが車内に侵入し、ガス中毒になるおそれがあり危険です。

車を移動するときは、必ずエンジンを始動してください。

●坂道を利用しての移動は思わぬ事故につながるおそれがあります。

●エンジンがかかっていないとブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが非常に重くなり思わぬ事故につながるおそれがあります。

車から離れるときは、パーキングブレーキをかけ必ずエンジンを止め施錠してください。

●無人で車が動き出したり、車両盗難のおそれがあります。また、施錠していても車内に貴重品を置いたままにしないでください。

雪が積もった場所や降雪時に駐車するときは、エンジンをかけたままにしないでください。

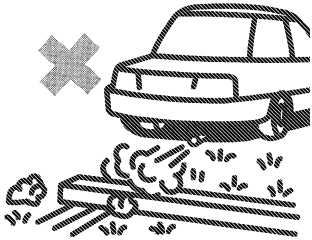
●エンジンをかけた状態で車の周りに雪が積もると、排気ガスが車内に侵入してガス中毒になるおそれがあり危険です。

可燃物付近に車を止めたりしないでください。

●車両後方や排気管付近に燃えやすいものがあると火災になるおそれがあり危険です。

●木材、ベニヤ板などが車両後方にあるときは、車両後端を30cm以上離して止めてください。すき間が少ないと排気ガスによって変色や変形したり、火災になるおそれがあり危険です。

●枯れ草や紙くずなど燃えやすいものの上を走行したり、車を止めたりしないでください。排気管や排気ガスは高温になり、可燃物が近くにあると火災になるおそれがあり危険です。



無断複製禁止

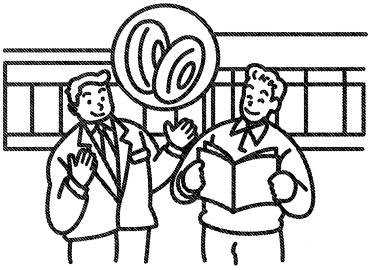
●こんな点にも注意を

違法改造は絶対にしないでください。

●次の部品を装着すると、車の性能（燃費・車両の安定性・制動距離など）が十分に発揮できないばかりでなく、思わぬ事故につながるおそれがあります。また、故障の原因となったり、違法改造になることがあります。
- トヨタが運輸省に届け出をしていない部品
- 車の性能や機能に適さない部品

●ハンドルの取りはずしや他の車両への取りつけは絶対にしないでください。ハンドルにはＳＲＳエアバッグが内蔵されているため、不適切にあつかうと、正常に作動しなくなったり、誤ってふくらみ重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

●電装品、無線機などの取りつけ、取りはずしはトヨタ販売店にご相談ください。
電子機器部品に悪影響をおよぼしたり故障や火災など思わぬ事故につながるおそれがあります。



タイヤ・ディスクホイール・ホイール取りつけナットを交換するときは、トヨタ販売店にご相談ください。

●ディスクホイール・ホイール取りつけナットはトヨタ純正品以外を使用しないでください。車の性能（燃費・車両の安定性・制動距離など）が十分に発揮できないばかりでなく、走行中にナットがゆるみ、ホイールがはずれるなど、思わぬ事故につながるおそれがあります。また、故障の原因となったり、違法改造になることがあります。

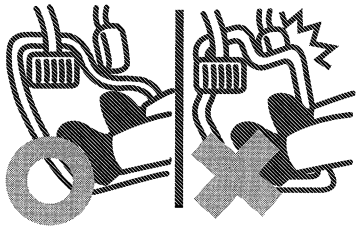
●タイヤは4輪とも指定サイズで、同一メーカー・同一銘柄のものを装着してください。また、異常があるタイヤを装着しないでください。車の性能（燃費・車両の安定性・制動距離など）が十分に発揮できないばかりでなく、思わぬ事故につながるおそれがあります。また、部品に悪影響をあたえるなど故障の原因となったり、違法改造になることがあります。（冬用タイヤも同様です。）
例えば、下記のシステムは、正確な車両速度が検出できなくなる場合があり、正常に作動しなくなるおそれがあります。
- ＡＢＳ＆ブレーキアシスト
- トラクションコントロール
- ＶＳＣ
- スカイフックＴＥＭＳ
- クルーズコントロール
- タイヤ空気圧警報システム
- ＧＰＳボイスナビゲーション

また、下記のシステムは、性能が十分に発揮できないばかりでなく、駆動系部品に悪影響をあたえるおそれがあります。
- フルタイム4WD
- ＬＳＤ（リミテッド・スリップ・デフ）

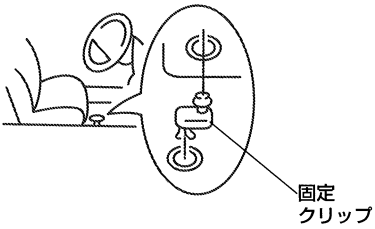
無断複製禁止

車にあわないフロアマットは使用しないでください。

●フロアマットはペダルに引っかからないよう、車にあったものを正しく敷いてください。また、ずれないよう固定クリップなどで固定してください。ペダルをおおったり、重ねて敷くとペダル操作のさまたげになり、思わぬ事故につながるおそれがあります。



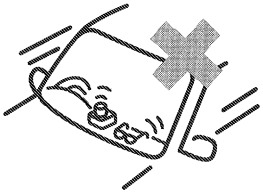
●カーペットの穴は、トヨタ純正フロアマットのずれを防止するために使用する固定クリップ取りつけ用です。



無断複製禁止

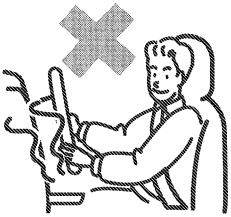
インストルメントパネルやダッシュボードの上に物を置いたまま走行しないでください。

●運転者の視界をさまたげたり、発進時や走行中に動いて安全運転のさまたげになるおそれがあります。また、万一の事故の場合には、助手席ＳＲＳエアバッグが正常に作動しなくなったり、助手席ＳＲＳエアバッグがふくらんだときに飛ばされて危険です。



灰皿を使用したあとは、マッチ、タバコの火を確実に消し、必ず閉めておいてください。

●開けたまま放置すると火災になるおそれがあり危険です。

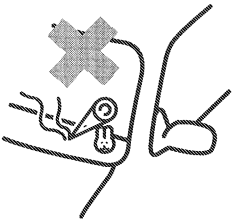


ラジエーターや補助タンクが熱いときは、キャップをはずさないでください。

●蒸気や熱湯が吹き出すおそれがあり危険です。

窓ガラスなどには吸盤をつけないでください。

●吸盤がレンズの働きをして、火災になるおそれがあり危険です。



熱線反射ガラス、またはプライバシーガラスなどの色付きガラスには、塩化ビニール製の吸盤やシールなどをつけないでください。

●塩化ビニール製品に含まれる成分により、ガラスの変色、色抜けの原因になります。

無断複製禁止

ハンドフリー以外の自動車電話や携帯電話を運転者は走行中に使用しないでください。

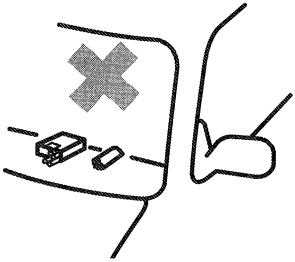
●思わぬ事故につながるおそれがあります。

クラッチペダルに足をのせたまま走行したり、必要以上に長い時間、半クラッチ操作を行わないでください。

●クラッチが早く摩耗したり、過熱し思わぬ事故につながるおそれがあります。

炎天下で駐車するときは車内にライターを放置しないでください。

●車室内が大変高温になるためライターが爆発するおそれがあり危険です。



無断複製禁止

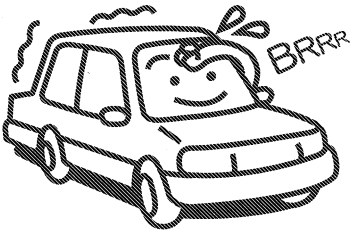
ターボ車の取り扱いチェックポイント

ターボ装置は、エンジンに大量の空気を過給してエンジンからより大きな馬力を引き出すもので、非常に精密に作られています。
ターボ装置の故障を防ぐため、必ず以下の点をお守りください。

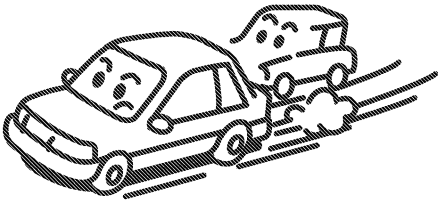
高速走行・登坂走行直後はエンジンを止めないでください。

●必ずアイドル運転を行い、ターボ装置を冷却してからエンジンを停止してください。
アイドル運転を行わないとターボ装置の故障の原因になります。
エンジン停止前のアイドル運転時間

運転状況		アイドル運転時間
市街地、郊外などの一般走行		必要なし
高速走行	約80km／h定速	約20秒
	約100km／h定速	約1分
山岳ドライブウェイなどの急な登坂路走行およびレース場など100km/h以上の連続走行		約2分



エンジンが冷えているときは空ふかしや急加速は絶対に行わないでください。



マフラー、プラグなどには指定以外の部品を使わないでください。

定期的なオイル交換を必ず行ってください。

●エンジンオイルは必ず5,000kmごと（ただし6カ月をこえないこと）オイルフィルターは必ず10,000kmごとに交換してください。
ターボ装置は、毎分10数万回転におよぶ高回転、700℃以上の高温下で使われ、その潤滑と冷却はエンジンオイルで行われています。したがって定められた期間でエンジンオイル、オイルフィルターを交換しないと、劣化したエンジンオイルにより、ターボ軸受部の固着、異音の発生など故障の原因となります。

無断複製禁止